

の横穴の内部は狭く、傾斜も急で、その上岩が非常にもろく、両手に梯子、背にキスリングの我々は大変恐しい思いをせねばならなかった。とにかく最後まで面白くない銀路鉦調査行であった。

9. マイコミ平洞窟と観光

岩 本 琢 磨

過去五回、我々は毎年青海千里洞へと足を向けている。そのたびごとに、このマイコミ平は絶えず新しい自然を見せてくれる。沢治いの柳の淑かさ、クルミの木の漂々軽さ、それが所々の地底からの凍った冷気で足許を震わせている。これが秋であると葉も落ち一層寒々と感じられる。沢自体も生々としている。何故なら、毎年川筋が変わり秋ともなると水と競走を強いられる。これは石灰岩地帯だけに観られる現象で、流れは川の底へ潜ってしまうのである。又、豪雨の後は新洞の誕生となる。第1次活動の際には、台風通過後の朝炊事場としていた所に新洞が口をみせた。実際このマイコミ平は生きている。泣かされる時もあるがしかし自然と対話でき、これほど強烈な返事をしてくれる相手もいないだろう。地の底でもそれがいえる。洞の中には雪溪のカーベットがある。ときには虎皮に、又ある時は馬のそれにと形を変え、地下水はしずくのごとく、嵐のごとく洞内に降りそそぎ、その響きは地上以上に反響する。その境の洞口では四季によって移り変わる高山植物。そんなに高地ではないが洞内から吹き上げる冷気により特殊地帯を作り、美しく簡素な花を咲かせている。私はそれらの一つ一つの名は知らないが紫の花、黄の花と自然の愛らしい一面に触れることができる。毎年帰る時、他人の見ていない自然に触れたことに満足感を味わうが、又それを子供の様にいいふらしたい気持。反面、自分だけで見尽したい気持。しかし、これは贅沢である。

もしマイコミ平一帯を観光開発するには、困難な悪条件がひかえている。まず第一に場所がめぐまれていないことである。最初にこの地だけを目的に観光客を呼び込むには完全に企業化しなければ宣伝も中途半端にならざるをえない。近くでは有名な観光地は親不知、黒姫川だけだし、それに便乗するとしてもそれは決定的なものではないだけに、独自に観光化を押し進めなければならぬのではないかと。近くに大都市がないし名も売りにくいだろう。次に時期が初夏から初秋の間と限られ、他の季節は雪と寒さに遮られる。それからアブの大群である。たとえ景色がいかに美しくともこれでは興ざめである。幸いにもこれは退治することができると聞き安心した。

観光事業が軌道に乗れば来る客は幸せだろう。我々を悩ませたアブはいず、山好きな者はヒンヤリした沢ずたいに、又、気軽るに來たい者は近々出来る林道から車で足を入れる。夏は避暑がてらにきて、高山植物を雪溪の上から望み、山小屋では飯盒炊さん。秋は山あいで周りの紅葉した木々を眺めクルミを取るのもまた楽しいだろう。私の希望としては青海千里洞の全望を観る事が出来るようにしてもらいたいのだが。例えば、エレベーターを取付けて立体遊歩とか……。とにかく日本では洞窟といえば秋芳洞、安家洞で代表されるが如く横穴の女性的な美を想い浮かべる者が多いので、一日も早くこの雄々しい堅穴の厳しさの中的美を見てもらうことを願ってやまない。我々の手で探り全貌を明らかにし、今では一步一步眼を閉じていても歩ける程に知りつくし、愛着を感じている青海千里洞を……。

10. 探 検 記

—— 千 里 洞 へ の 挑 戦 ——

松 浦 順 一

8月3日、この日の為に我々は4月から種々のトレーニングやミーティングを重ねて來たのだ。上級生達の意気込みは僕達新入生のそれとは相当の隔りがある様に思えた。しかし僕はまだ日本最深の堅穴洞窟には一度も入ったことがないので本当に単純な動機で参加したのである。過去の資料や先輩の話等でそのスケールの大きさに対する疑問と驚嘆が裏腹になってふくれ上がるばかりでりであった。3日の夜、大阪駅を出発する時はこれから私等のやる事の大きさと自分の任務に圧倒されそうな気持であった。2日間に及ぶ荷上げも心が弾んだ。何故だろう。いつものボックトレーニングとは全々違う。大きな期待と成功の懷疑が胸をたびたびかすめる。「ブッシュを出て川原を少し上るとすぐだ！」と一先輩が叫んだ。川原におりてからの歩調は自然と速くなっていった。この頃からアブの大群に襲われ始めた。普通のアブよりは一まわり小さいものだが、この活動中常に悩まされた厄介者だった。8月4日、ベース・キャンプを設営し洞口までワイヤ梯子やザイル等を運んだ。ドリーネには残雪があるが、標高600mくらいの所に、しかも真夏でありながらどうしてあるのかよく分からなかった。又それがもたらす気温の変化には大変まいった。ベース・キャンプでは暑くてもドリーネを降り始めると肌寒くなり、洞口では一段と寒くなる。洞口附近の気温摂氏6度。僕と梅田さんが、昨年どうしても撤収できずやむなく洞内に放置